

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

木育スタート パズルゼリ

木を通じた人と地域の育成

木育はほせ庄まれたが、四方を海に囲まれ南北に長く、標高差の大きい日本の国土には亜寒帯から亜寒帯に至るまでさまざまな気候帯が存在する。この特異な環境と湿潤な気候は国土の67%を占める豊かな森林を形成し、そこで暮らすヒトにさまざまな恵みをもたらし続けてきた。



東大寺などの木造建築物に代表されるように、日本人が誇る木の文化、伝統は、日本の紋様を森林に由来するものから生みだされてきた。その日本において、この数年注目されてきた木育である。



平成16年に北海道から始まった木育は、日本人の暮らしの中に「木」を取り戻すことをその狙いとし、「子どもをはじめとするすべての人が「木」と触れ合い、木に学び、木と生きよう」と取り組むとされた。

林野庁を中心に木育活動が推進されるようになり、幼児期から木との関わりを深め豊かな暮らしづくり、社会づくり、森林づくりに貢献できる市民の育成を目標とした活動として徐々に展開するようになってきた。

尾張旭市保育園でもモデルとして2保育園にてジュニア・シニア的にスタート。子供の感想は「もっとなさんつくりに」と言っていました。



現在では木との触れ合いは、けん玉で木に親しんでおられます。やはり二〇二〇年東京オリンピックの国立競技場では木を取り入れた木造建築が中心の技術を生かした完成には期待が持たれます。落ち着いた競技場にはなると思っています。

少しずつ市民生活の向上にもなると思います。協力してくれたいのは中部保育園の年長組さんでした。

